

Contents

Message	1~2
Business Angle	3
Information	4~5
Activities	6~8

【事務局】 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-37-4 友田三和ビル3F
TEL 03-3296-0769 FAX 03-3296-0779 URL <http://www.ajec.com/>

Message

魅力ある協会を目指して新体制がスタート

このほど開催された通常総会で、理事候補7名、監事候補2名が承認され、理事による互選の結果、(株)オフィス201の細江弘司社長が日本編集制作会社協会の第7代理事長に就任しました。また、副理事長には(株)風讀社の坂井一之社長が、理事・事務局長には(株)タカオ・アソシエイツの高雄宏政社長が引き続き選任され、新しい役員体制がスタートしました。今回の巻頭メッセージは、新理事長に就任した細江氏に抱負を語っていただきました。

このほど日本編集制作会社協会の理事長に推挙され、その責任の重さを痛感するとともに、改めて身の引き締まる思いです。

当協会は1983年に発足しましたが、当時はまだ編集制作会社を使う出版社が少なく、企画から校了まで手がける会社があることをなかなか理解してもらえませんでした。そのため協会発足当時の最大の課題は、「編集制作会社の存在と力量をどうやって認めてもらおうか」ということだったのです。今や当たり前となっている委託契約書の作成や編集印税なども、こうした活動の中から実現しました。

その当時から見れば、最近の編集制作会社は社会的にもある程度認知されるようになり、出版業界において欠かせない存在となっています。しかし、その一方で、出版市場は縮小傾向にあり、編集制作費も下降線をたどっています。

我々編集制作会社の仕事をもっと評価され、経営的に安定するために、協会が果たすべき役割は決して少なくないと思います。

社団法人化を視野に “量”と“質”の充実を図る

会員のために役立つ協会にしておくためには、“量”と“質”の充実が欠かせません。量とは、会員数を増やしていくことです。

現在、編集制作会社は都区内だけで600社前後あると言われていますが、当協会の組織率はまだその1割程度に過ぎません。これをせめて20%ぐらいに引き上げるためにも、魅力のある、役立つ協会にする必要があります。「会員になることが信用につながる」「会員社であることで優秀な人材を集めやすい」「業界

内外のさまざまな情報を知ることができる」など、“得るものがある協会”にしなければなりません。当協会では事務局に依頼のあった仕事を正会員に公開していますが、このようなサービスをさらに充実させていきたいと考えています。

次に質ですが、「良い仕事をしている」と評価されるためには、優秀な社員が必要です。協会では人材の確保・育成に関しても、さまざまな支援活動を行っています。今年からスタートした「編集技術講座」もその一環で、年10回の体系的なセミナーを通して編集制作の知識や技術を習得してもらっています。

また毎年秋には、出版社の編集者や地方の非会員社なども参加する「拡大編集セミナー」を開催しています。さらに会員社の社員が、自分たちの仕事に自信と誇りを持ち、モチベーションを高めてもらうことを目的に、顕彰制度として「日本編集制作大賞」を導入しました。

このほか、公益法人制度改革法が今国会で成立したことを受け、2008年中の社団法人化を目指して準備委員会を発足しました。こうしたさまざまな取り組みを通して、協会に加盟することのメリットをアピールし、会員拡大、社員の質の向上に努めていきたいと考えています。

これからも会員の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。



新理事長に細江弘司氏が就任

現場を持つ強みこそ編集プロの原点

副理事長 坂井一之

最先端のコンピュータ技術を集めた工作機械でもかなわない世界があります。町工場の匠たちの技術です。現場で長年培った技術は、時としてコンピュータにはできない微細な加工を可能にします。そんな匠たちの門前に、大企業が日参しています。コンピュータ技術で何でもできると思われている時代に、なぜかほっとするエピソードだと言えます。

出版業界は今、インターネット時代の到来により情報の無料化、スピード化、ボーダレス化が進み、その根底が揺さぶられています。出版不況のマクロな要因は、このパラダイムシフトの変化と無縁ではありません。出版ビジネスに身を置く書き手や表現者たちをプロと呼ぶとき、ネットの世界ではセミプロの書き手や表現者たちが溢れています。表現の場は増え、表現手段も出版人と同等の技術環境をたやすく手に入れることができま

す。確かなことは、プロとセミプロの区別すら難しくなってきたということです。出版産業ひとつとっても、こうした変革の地殻変動にさらされ、これからは流通はもちろん、ビジネスの拠り所となる価値体系すら維持できなくなってしまうことでしょう。そんな時代にどう対処していったら良いのか。だれにも予測できない「大変革時代」が、今、目前に迫っています。

町工場の匠の話は、そんな時代の到来に一つの希望を与えてくれます。編集プロダクションの強みは何かといえば、我々には「現場」があるということです。とても泥臭い現場ですが、求められるコンテンツをクライアントや読者のニーズに合わせて、一つ一つ自分の手で作りあげていきます。もし安直に作れば、セミプロの作ったDTP作品と大差ないかもしれません



が、長年、この仕事に携わってきた者でなければなし得ない表現技術があれば、それは同じように見えてもキラリと光る、価値のあるコンテンツとなります。

我々には、コンテンツ制作の現場にいるという「強

み」があります。その強みを支える技術、経験を深めていくとき、それが評価に結びつくのだと思います。情報環境の変化にしっかり対応しながら、現場を育み、大切にしていくな意気を忘れなければ、大波が来ても、町工場の匠たちのように波にさらわれず、生き残れると思います。

当協会の加盟社は、さまざまなジャンルのコンテンツ制作に携わっています。私も会員の皆様と交流を深める中で、編集プロの底力を感じ、大いに勉強させていただいております。そんな仲間と交流を深め、触発し合う場がこの協会です。理事の一員として、微力ですが、今後も力を注ぎたいと思っています。

協会としてのミッションを明確にする

理事・事務局長 高雄宏政

これまで会報などでご案内してきました新しい取り組みが、少しずつ動き始めました。1つは「編集技術講座」です。年10回の体系的なセミナーを通して、編集プロダクションの社員として最低限必要な知識や技術を習得してもらうことを目的に開講したこの講座は、資格認定制度としての機能も視野に入れており、全カリキュラムを受講した人には修了証を発行し、一定の基礎知識が身についたことを協会として認定します。

2つ目は顕彰制度の新設です。協会ではかつて「AJEC賞」を設け、優秀な作品を表彰してきましたが、コストや運営上の問題などで取りや

めになっていました。今回導入する「日本編集制作大賞」は、大勢の出版関係者が集まる東京国際ブックフェアの編集制作プロダクションフェアを活用し、来場者に協会ブースに展示する「我が社の一冊」の中から優秀作品を選んでもらいます。これを定例化することで、編集制作における権威ある賞に育てていきたいと考えています。

3つ目は社団法人化です。協会の法人化に関しては、10数年前にも当時の通産省と交渉し、その実現を目指したことがありますが、予算規模や組織率などの面で難しく、これま



で任意団体を続けてきました。しかし、今国会で公益法人制度改革法案が成立されたことを受け、社団法人化を目指すことにしました。

今後、定款変更や事務局の拡充など、解決しなければならない課題が多くあり

ますが、協会ではすでに理事会の諮問機関として法人化準備委員会（小檜山範男委員長）を新設し、2008年の登記・移行を目指しています。また、これに合わせ、協会のさまざまな内規を検討・作成する内規策定委員会（山本肇岡委員長）も新設しました。

今後も協会のミッションを明確にし、「魅力ある、役に立つ協会」を目指していきます。皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

◆2006年版「編集制作業 経営白書」作成 収益性が改善し、4割近くの会社で増益

2006年版の「編集制作業 経営白書」がこのほど完成しました。それによると増収だった会社はやや減ったものの、増益会社が増え、ここ2～3年続いた減益傾向から脱却しました。

日本編集制作会社協会では、編集プロダクションの経営実態を把握するため、毎年、会員社に対してアンケート調査を実施し、「経営白書」を作成しています。今年は32社から回答が寄せられ、これを専門分野ごとに「教材」「一般書」「企業出版」「その他」に分けてそれぞれ分析を加えました。また、当調査では経営実態をより正確に把握するため、回答数値が極端に他のサンプルと異なる場合には、これを集計から外し、有効平均値を算出しています。

◆今期の増収増益予想は4割弱

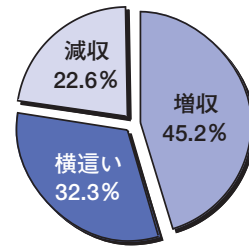
有効平均値によると、売上高は全体平均で3億2,910万円(対前年比0.7%増)、正社員数は16.8人(同4.3%増)でした。売上に関しては「横這い」だったとする会社が増え、増収の会社は前年調査の55.9%から45.2%と減少しました。しかし利益面では、増益だった会社が38.7%に達し、前年調査よりも9.3ポイント増えています。

今期の業績見通しでは、増収を見込んでいる会社が36.7%、増益見込みの会社も36.7%にとどまり、いずれも前年調査を下回りました。

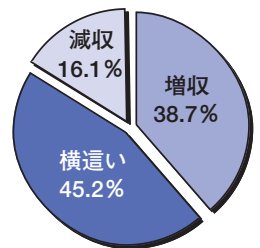
◆昇給率は過去最高の6.5%

従業員は正社員が16.8人(有効平均)と平年並みでしたが、契約社員やパート・アルバイトの臨時雇用が15.5

売上高の状況



収益の状況



人に達し、平年の2倍以上に増えたことから、従業員合計は過去最高の32.3人(前年23.3人)となりました。なお、採用実績は平均3.9人でした。

社員の待遇では、初任給が全体平均で19万346円にとどまり、3年連続でダウンしました。しかし昇給率は過去9年間で最高となる6.5%(前年5.8%)にアップし、年間賞与も平均3.3か月(同2.8か月)で、5年連続のアップとなりました。

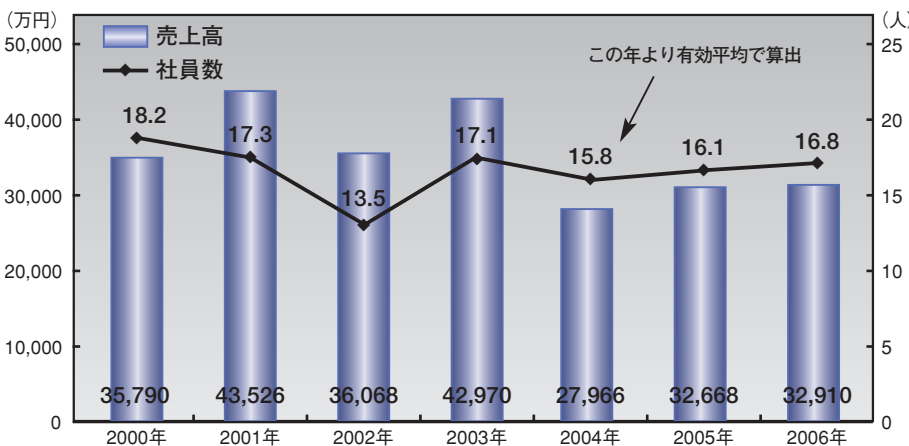
◆経営上の悩みは「人材の確保育成」

編集制作会社も最近は業務内容が拡大・多様化し、売上の中で編集制作業務が占める割合は約6割にとどまっています。また従業員の職務構成を見ても、編集制作を行っている社員の割合は51.7%で、営業、開発、その他が3割近くに達しています。

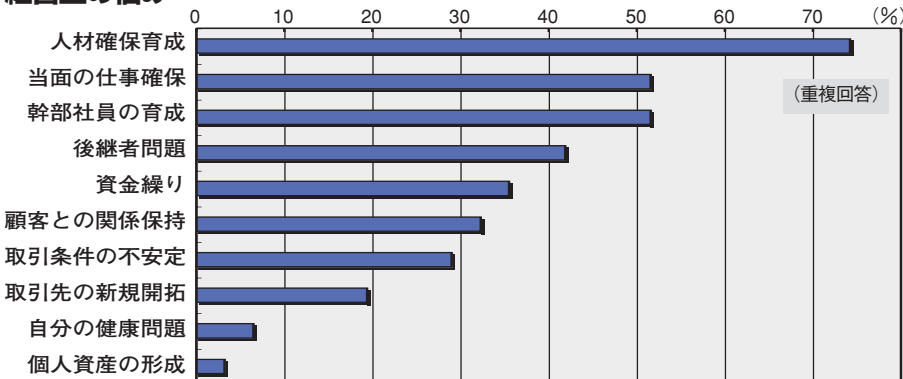
経営上の悩みでは、「人材の確保育成」が最も多く、回答者の74.2%(重複回答あり)がこれを挙げました。次いで「当面の仕事確保」と「幹部社員の育成」がともに51.6%、そのほか「後継者問題」(41.9%)、「資金繰り」(35.5%)などとなっています。

今後の方向性では、現状の編集プロダクションを挙げる会社が6割以上を占めましたが、出版社を挙げる会社も毎年少しずつ増えています。また、編集制作業の将来に関しては、「発展する」「まあまあ発展する」と前向きにとらえている会社が過半数を超えましたが、その一方で「厳しい」「発展しない」と悲観的に考えている会社も年々増え、今回は3割近くに達しました。(分析/高雄宏政)

売上高と正社員数の推移



経営上の悩み



◆ 日編協に加盟するメリットが 活発な活動によりどんどん増えています

1983年4月に誕生して以来、当協会は20数年にわたり、編集制作のスキルアップと業界の地位向上を目指し、さまざまな活動を展開してきました。それとともに協会加盟のメリットも年々高まっています。

① 取引先に対する信頼

日本で唯一の編集プロダクション業界の団体である当協会に加盟することで、取引先からの信頼が増し、新たな顧客との交渉でも相手の信頼を得ることができます。

この信頼性をさらに高めるために、協会では今年から顕彰制度として

「日本編集制作大賞」を新設し、2008年の社団法人化を目指しています。

② 編集技術の習得

協会では、①基礎的な編集技術の向上ならびに編集ノウハウの蓄積、②編集制作のデジタル化に対応した先端技術の習得、③受講者の相互交流、④将来の資格認定制度の導入などを目的に、出版社のベテラン編集者を講師とする年10回の「編集技術講座」を開講しています。そのほかにも「拡大編集セミナー」を開催し、新人・若手編集者の人材育成、編集技術の習得に努めています。

③ 業界内外の情報収集

定期的開催される部会や例会、あるいは忘年会や親睦ゴルフコンペなどの各種行事を通して、会員仲間からさまざまな情報を得ることができます。また、編集制作業の経営実態に関しては、毎年「経営白書」を発行して情報を開示しています。さらに外部の講師を招き、経営上の問題などを協議する合宿形式の経営研修セミナーや、海外のブックフェアや出版社などを視察する海外研修ツアーも行っています。

④ 相談／コラボレーション

一人ではなかなか解決できない営業や経営の悩みなども、会員同士の

部会、例会、編集セミナー、経営合宿など 毎年20以上もの行事を開催しています

<2005年度の主な行事>

- ◆4月8日 新人・若手研修セミナー
ビジネスマナーや編集者としての心構えなどについて講義（東京・神楽坂／日本出版クラブ会館）
- ◆4月21日 春季親睦ゴルフコンペ
5組19名が参加して開催（埼玉／越生ゴルフクラブ）
- ◆5月12日 通常総会／懇親会
総会後の懇親会には準会員や賛助会員なども参加し、親睦を深めた（東京・神楽坂／日本出版クラブ会館）
- ◆6月10日 拡大協議会
理事、監事、各委員会の副委員長、

各部会の副会長が集まり、協会運営全般について意見交換を実施（東京・神田小川町／神田 いるさ）

- ◆6月16日 一般書部会
プロダクション経営の展望をテーマに事例報告を交えて情報交換（東京・神楽坂／京都ぎおん久露葉亭）
- ◆6月23日 教材部会
教材系の会員社が集まり、情報交換を行う（東京・神田／ふくるる）
- ◆7月1日～2日 経営研修セミナー
「経営白書」の発表、外部講師による労務管理についてのセミナー、会員社の事例研究などを実施し、夜は

懇親会を開催（神奈川・箱根町／ホテルおくゆもと）

◆2005年7月7日～10日

編集制作プロダクションフェア

「東京国際ブックフェア2005」と同じ日程・会場で開催。会員社が個別出展したほか、協会の特設ブースを設置し、会員社の「我が社の一冊」を展示（東京ビッグサイト）

◆7月21日 企業出版・デジタル合同部会

企業出版系の会員社とデジタル系の会員社のコラボレーションを目指し、合同部会を開催（東京・神田町／むすびや 海苔米茶屋）

◆7月22日 編集セミナー

「印刷の基本知識と今後の動向」をテーマとした講義と印刷工程の現場



編集セミナーには毎回大勢の参加者が集まる



東京国際ブックフェアで開催される編集制作プロダクションフェア



部会では参加者が近況などを報告し合う

忌憚のない意見交換から解決の糸口を見いだすことができます。さらに著作権、契約取引、労務などの難しい問題に関しても、当協会の顧問弁護士に相談することが可能です。

また、会員同士がコラボレーションしてパワーアップを図ったり、お互いに仕事を紹介し合うことも日常的に行われています。

⑤ 営業活動のバックアップ

協会のホームページ、手帳、会員ガイドなどの発信情報媒体や、編集プロダクションフェアなどのイベントを通じて、会員社のPRに努めています。また、正会員に対しては、協会事務局に引き合いのあった「仕事の依頼」を公開しています。

日本編集制作会社協会の歴代理事長

初代	1983年4月～86年4月	菅野 尚 (元・三省堂教育開発社長)
第2代	1986年4月～88年5月	柚口 篤 (元・ユズ編集工房社長、故人)
第3代	1988年5月～93年5月	高雄宏政 (タカオ・アソシエイツ社長、現理事)
第4代	1993年5月～96年5月	荻野洋一 (元・ロム・インターナショナル社長)
第5代	1996年5月～02年5月	須藤靖夫 (カルチャー・プロ社長)
第6代	2002年5月～06年5月	檜森雅美 (アーク・コミュニケーションズ社長、現理事)
第7代	2006年5月～	細江弘司 (オフィス201社長)

を見学 (東京・板橋／三松堂印刷)

◆10月6日 秋季ゴルフコンペ

4組15名が参加して開催 (茨城／取手国際ゴルフ倶楽部)

◆10月28日 全国拡大編集セミナー

筑摩書房専務の松田哲夫氏、出版ニュースの清田義昭氏社長、小学館「サライ」の編集長兼発行人の東直子氏、PHP研究所第一出版局長の安藤卓氏などを講師に招き、地方の非会員社を含め100名近くを集めて開催 (東京・一橋／日本教育会館)

◆11月18日 秋の例会

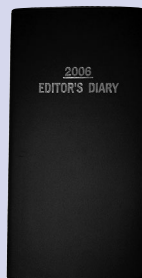
講師に社会保険労務士の中村俊之氏を招き、「編集制作業の就業規則の作り方」についてセミナーを開催 (東京・一ツ橋／日本教育会館)



泊まりがけで行われる経営研修セミナー



例会では当協会顧問弁護士によるセミナーなども開催



毎年発行される手帳「エディターズ・ダイアリー」

◆12月15日 忘年会

顧問弁護士なども参加し、盛況な会となる (東京・飯田橋／北海道)

◆1月13日 一般書・企業出版合同部会

一般書系と企業出版系の会員が集まり、新年会を兼ねた懇親を開催 (東京・神保町／LIBERTE)

◆2月16日 教材部会・デジタル部会

教材系とデジタル系の会員社が参加して合同で情報交換会を開催 (東京・神田／ふくるる)

◆3月16日 春の例会

編集プロダクションの営業活動強化をテーマに、賛助会員である大日本印刷の池田敏二氏を講師に迎えてセミナーを実施 (東京・神楽坂／日本出版クラブ会館)

会員社一覧

(音順)

正会員

- (株) アイフィス
- (株) アーク・コミュニケーションズ
- (株) アート工房
- (株) アルク出版企画
- (有) インターノーツ
- インデント(株)
- (株) エイティエイト
- (株) エスケイワード
- (株) エディット
- (株) エディ・フォア
- (株) エフビーアイ・コミュニケーションズ
- (株) 大空出版
- (株) オフィス201
- (株) オフィス・サンタ
- (株) カイト
- (株) ガリバープロダクツ
- (株) カルチャー・プロ
- (株) キャデック
- (有) くすのき舎
- (株) 桂樹社グループ
- 月刊ウララ編集室
- 有限会社 作品工房
- 三松堂印刷(株)
- (株) シーアール
- (株) シナップス
- (株) 翔文社
- (株) 情報列車
- (株) シンクハウス
- (株) 説話社
- (株) 全通企画
- (有) 双双編集
- 第一企画(株)
- (株) タカオ・アソシエイツ
- (有) T U ・ T I 編集室
- テーパーライト(株)
- (有) トゥー・ワン・エディターズ
- (有) 南雲デザイン
- (株) 新潟アドセンター
- (株) 日経スタッフ
- 日本教材システム(株)
- (株) 麦秋社
- (株) パルス・クリエイティブ・ハウス
- (株) 風讀社
- (有) フォワード出版社
- (株) プライムページ
- (株) ブレーンプール
- (株) フロンテア
- 文信電腦情報(株)
- (株) 美和企画
- (株) 群企画
- (株) メイテック
- メディア開発(株)
- (株) メディアミックス&ソフトノミックス
- (株) メディアユニオン
- (有) 木香舎
- (株) ユニックス
- (有) 洋洋編集
- (株) ロム・インターナショナル

準会員

- (株) エスオーエー・コミュニケーションズ
- (有) エル・クラフト
- (株) 暁和
- (有) スタジオデン
- (株) ダウンビート
- (株) トークス
- (有) バンティアン
- (株) P&I
- (有) ヤナイクリエイティブ

賛助会員

- 関西編集制作協会 PEAK
- (株) クリーク・アンド・リバー社
- 株式会社 クリエイティブ・センター
- 大王製紙(株)
- 大日本印刷(株)
- 凸版印刷(株)
- 日本紙パルプ商事(株)
- (社) 日本図書教材協会

◆今年から開講した「編集技術講座」に 出版社など外部からも大勢が受講

新人・中堅社員の教育の場として、また資格認定制度の導入を目指した取り組みとして、今年度からスタートした年10回の「編集技術講座」が、順調なスタートを切り、受講者は毎回、定員を上回る盛況ぶりとなっています。以下は、第1回および第2回講座の概要です。



第1回講座（4月21日）

「今日の出版界と編集者の役割」

講師：鷲尾賢也氏（講談社顧問）



出版界は大きな転換期を迎えている。その理由は、インターネット書店が増え、取次の制度疲労が起こった

結果、全国の小規模書店が相次いで閉店に追い込まれているためだ。また、「良い本よりも売れる本」という風潮になっており、100万部を超えるベストセラーが出る一方で、新書の初版部数は減り、格差が開いている。これは読者が自分で判断して読んでいるのではなく、流行で読んでおり、読者のレベルが低下しているとも言える。しかし、本は読まれなくては意味がないから、どうやって本屋に本を並べてもらうかということも、今や編集者の仕事になっている。

編集者の仕事とは、本を作る作業の中心にあって、その流れをスムーズにすることである。自分で全部やる必要はなく、分からないことがあった時に、誰に聞けばいいかが分かっていることが、良い編集者だ。どんな企画でも本質は同じであり、過去の企画の視点を少し変えるだけでも、違ったものができる。私は企画というものは、横（ライバル誌）から学ぶのではなく、縦（歴史）から学ぶものだと思っている。

編集者にとって大事なものは、個人

の文化資本を蓄積することだ。すぐには役立たないかもしれないが、10年後、20年後を見据えて、自分を豊かにする以外に道はない。

第2回講座（5月19日）

「売れる書籍の企画作り」

講師：大石陽次氏（NHK出版）



売れる本を作るには、編集者が自分の心の中をマーケティングすることが重要だ。「どんな本を読みたい

か」と、読者に聞いて回っても無駄である。なぜなら、読者自身が内心の欲求を自覚していないからだ。人々の漠然とした興味、疑問、欲望、不安は、同じ時代を生きている編集者の心も反映しているのだから、それをテーマ化にし、一冊の本として

提示することである。“需要が供給を決定する”のではなく“供給が需要を決定する”と考えるべきだ。

企画のスタートは、自分が持っている知識や興味からだ。そのテーマについて新聞や週刊誌などのコラムに、キラリと光るものを書いている人がいれば、まずは会いに行くことも一つの方法だろう。しかし、いきなり「こういう本を書いてください」というのではなく、自分の中にあるテーマを「どう捉えたらいいか」とぶつけることだ。それで反応があれば、具体的な話をすればいい。良い著者に巡り会うのはなかなか難しいが、とにかく数多く企画し、数多く本にすることが必要である。社内に閉じこもらずネットワークを作ること欠かせない。ピンチの時に助太刀は思わぬところから現れる。編集者は何よりも、一級の間人との出会いを大切にすべきだ。

今後の講座予定

■場所：日本教育会館 8階／第三会議室

（第6回のみ8階の806会議室）

■受講料：1講義3,000円（スポット）

■受講の申し込みは事務局まで会社名、受講者氏名、連絡先、希望講座（第○回）をご連絡ください。

◆第3回／6月16日（金）18時30分～

「読者を惹きつける雑誌の企画作り」

講師：黒坂 潔氏（主婦と生活社）

*当講座は終了しました

◆第4回／7月21日（金）18時30分～

「取材のコツと執筆のポイント」

講師：立尾良二氏（東京新聞外報部）

◆第5回／9月15日（金）18時30分～

「編集における校閲校正の要点」

講師：笹川 隆氏

（元・講談社生活文化局長）

*以下は講師未定です。

◆第6回／10月20日（金）18時30分～

「アートディレクションの仕方」

◆第7回／11月17日（金）18時30分～

「編集者としての人脈をどう作るか」

◆第8回／1月19日（金）18時30分～

「DTPとデジタル編集」

◆第9回／2月16日（金）18時30分～

「最新の印刷技術と紙・製本の知識」

◆第10回／3月16日（金）18時30分～

「著作権・差別用語の知識」

◆編集制作プロダクションフェアで 第1回「編集制作大賞」の審査を予定

7月6日(木)～9日(日)に東京ビッグサイトで開催される東京国際ブックフェアで、今年も「編集制作プロダクションフェア」が同時開催され、当協会がブースを出展します。協会ブースでは、会員ガイド、入会案内、協会報、手帳などを配布し、協会活動を紹介するとともに、会員社が編集制作した最新の代表作「我が社の一冊」を展示し、PRに努めます。さらに今年は、展示作品の中から「日本編集制作大賞」を選考する審査会も企画しています。

◆日本編集制作大賞の実施要項

会員社が全部または大部分の編集制作業務に携わった単行本、雑誌、教材、ムック、PR誌、カタログなどの作品の中から、①クオリティ、②スキル、③ルーチン(継続性)などの面で特に優れた作品を選考し、その功績を称えます。選考対象は編集制作プロダクションフェアの協会ブースに展示する「我が社の一冊」で、1社1作品に限定します。

◆会場・実施日

東京国際ブックフェア／編集制作プロダクションフェアの協会ブースで、版元、書店、取次などの出版関係者や専門家が多く来場する前半2日間(7月6日～7日)に行います。

◆選考方法

- ①候補作品(我が社の一冊)は、作品の内容、携わった仕事の範囲などを明記・添付し、一般書、企業出版、教材の3部門にわけて陳列棚に展示します。
- ②配置する場所は、公正を期すため各部門ごとに抽選によって決め、各作品に番号をふります。
- ③投票資格は投票期間中に協会ブースに来場した人全員ですが、不正防止のため記名投票とし、1人1票とします。なお、候補作品を出展した会社の社員は、投票できません。
- ④投票は2日目の夕刻5時をもって終了し、ただちに担当理事が立ち会いのもとで集計します。

◆各部門賞／副賞

日本編集制作大賞	グランプリ	1点
同	一般書部門賞	1点
同	企業出版部門賞	1点
同	教材部門賞	1点

受賞者には表彰楯のほか、グランプリに金5万円、各部門賞に金3万円を贈呈します。また受賞作品はリボン記章をつけ、ブックフェアの後半2日間にわたって展示披露します。さらに後日の協会行事で表彰式を実施する予定です。



今年の協会ブースはイメージを刷新(制作/施行・南雲デザイン)

個別出展社の一覧

編集制作プロダクションフェアには、今年も以下の会員社が個別に出展します。

(株)アルク出版企画	(株)エディット
(株)カルチャー・プロ	(株)シンクハウス
(株)タカオ・アソシエイツ	(株)日経スタッフ
(有)トウ・ワン・エディターズ	
(株)パルスクリエイティブハウス	
(株)群企画	(有)木杵舎 (順不同、3月末現在)

日編協 海外研修ツアー フランクフルト・ブックフェア視察 参加者募集中

10月7日(土)～10月16日(月)に海外研修を実施します。今回は(社)出版文化国際交流会が企画協力し、JTBが旅行業務を担当する「第58回フランクフルト・ブックフェア」の視察ツアーに参加する形で行い、イタリア視察も予定しています(期間短縮も個別に対応できます)。

世界最大の本の国際見本市である「フランクフルト・ブックフェア」を視察することで、最新の出版事情に触れ、あわせて会員間の交流を深めていただきます。また、出版文化国際交流会のツアーには大手・中堅出版の関係者が多数参加しますので、10日間の視察中に人的交流を広げるまたとない機会にもなります。

旅行代金は515,000円(2名1室の場合)。申し込み締め切りは7月末(JTBの最終締め切りは8月25日)です。

★フランクフルト・ブックフェア★

1949年から始まり、今年で58回目を迎えます。昨年は101か国から7,000以上に及ぶブースが出展し、入場者数が30万人に達する世界最大のブックフェアとなっています。

Admission 新入会員社紹介

準 有限会社 スタジオデン

住 所 〒316-0032 茨城県日立市西成沢町2-20-1
日立地区産業支援センター別館 MCO-203
TEL/FAX 0294-35-4433 URL <http://www.studio-den.com>
代表者 代表取締役 田山進一
設 立 2006年3月27日 社員数 2名
事業内容 雑誌、書籍等の企画、編集、取材、原稿作成、撮影、デザイン
取引先 日宣、常創、弘栄、社団法人笠間観光協会、ほか
特 徴 茨城県の日立市に事務所を置いています。主に茨城県内で発行されている雑誌、書籍等の編集とDTPデザインを行っています。企画の立ち上げから取材、撮影、原稿作成といった編集全般の業務、そしてデザインワークまでトータルにこなします。茨城の取材はおまかせ下さい!

春季ゴルフコンペ

4
15

第36回ゴルフコンペ（春季大会）が4月15日（土）に千葉県市原市のロッテ皆吉台カントリークラブで行われました。当日は5組19名が参加し、(株)アート工房の大坂日出男氏がネット72（グロス108、HC36）で優勝。準優勝はネット74（グロス89、HC15）の平田嘉男氏（株）キャデック）、3位はネット76（グロス91、HC15）の酒井文人氏（株）説話社）でした。

第24期通常総会・懇親会

5
18

第24期通常総会が、5月18日（木）午後5時から東京・神楽坂の日本出版クラブ会館で開催されました。総会では平成17年度事業報告及び決算報告と平成18年度予算案の審議が行われ、引き続き新たに選出された役員承認が決議されました。

総会終了後には同会



通常総会（写真左）とその後に
行われた懇親会（写真上）の様

場で懇親会が開かれ、新任役員や新入会員の挨拶がありました。なお懇親会には準会員や賛助会員なども多数参加し、和気藹々とした雰囲気に包まれました。

拡大協議会

6
2

6月2日（金）午後6時30分から、東京・神保町の「和食居酒屋 咲くら」で拡大協議会が開催されました。

拡大協議会は、協会活動を中心となって推進している理事ならびに監事、そして各委員会の副委員長、各部会の副部長が集まり、協会運営やさまざまな施策に関して意見を聞く、理事会の諮問的な機関として毎年一回開催されています。

今回は13名が出席。会員拡大のために

協会に加盟するメリットをもっと打ち出すべきだといった意見が多く出されました。日編協は今後もさらにアグレッシブな活動を続けていきます。



編集技術講座

4
21 5
19 6
16

編集制作の知識や技術の習得を目的として今年度から年10回の「編集技術講座」が開講し、その第1回（4月21日午後6時30分～、以下同）、第2回（5月19日）、第3回（6月16日）が、いずれも東京・一ツ橋の日本教育会館で行われました（詳細および講義内容は6ページをご覧ください）。



経営研修セミナー（予定）

毎年恒例の経営研修セミナーを以下の通り、6月30日（金）午後1時から神奈川県・箱根町の「リゾートピア箱根」で開催します。

- 第1部 「経営白書」報告・意見交換
- 第2部 セミナー「インターネット時代に出版コンテンツをこう生かせ」
講師：矢野貴久子氏（株）カフェグロ
ーブ・ドットコム代表取締役
- 第3部 事例研究
（株）オフィス・サンタ 鈴木あきら社長
（株）説話社 酒井文人社長
- 午後6時30分～ 懇親会
- 7月1日（土） ゴルフコンペ

新役員を紹介

（敬称略／音順）

	担 当	氏 名	社 名
理 事	理事長 兼 教育委員会委員長	細江 弘司	(株)オフィス201
	副理事長 兼 経営委員会委員長	坂井 一之	(株)風講社
	事務局長 兼 広報委員会委員長	高雄 宏政	(株)タカオ・アソシエイツ
	組織委員長 兼 デジタル部会長	小林 哲夫	(株)エディット
	企業出版部会長 兼 法人化準備委員会委員長	小檜山 範男	(株)ブレーンプール
	一般書部会長	檜森 雅美	(株)アーク・コミュニケーションズ
	教材部会長 兼 内規策定委員会委員長	山本 肇罔	(株)シナップス
監 事	監事 兼 組織副委員長	田中 信幸	(有)木杏舎
	監事 兼 広報副委員長	平田 嘉男	(株)キャデック
副委員長・副部会長	経営委員会 副委員長	鈴木あきら	(株)オフィス・サンタ
	教育委員会 副委員長	土田 俊子	(有)TU・TI編集室
	企業出版部会 副部会長	小原 好春	(株)アイフィス
	一般書部会 副部会長	酒井 文人	(株)説話社
	教材部会 副部会長	須藤 靖夫	(株)カルチャー・プロ
	デジタル部会 副部会長	出嶋 隆	三松堂印刷(株)

* 法人化準備委員会と内規策定委員会は理事会の諮問機関として暫定的に設置